

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 土気地区部会

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
１ 情報の収集と共有化	・住民会員、賛助会員、公的機関等に地区部会の各種活動を知らせて理解、協力を広めながら事業を推進する。 ・事業に参加する活動会員と推進する支援者を募集して各種活動の拡充を図る。 ・地区部会の構成団体や関係機関の役割を紹介し、連携した効果的な事業にする。	・広報紙「ふくし」の発行、年２回、１回１．３万部、公的機関には非会員が利用できるよう配布依頼 ・福祉活動写真ニュース、２回発行 ・写真パネルの内容を一新し、全住民対象の活動時に情宣用として活用 ・写真を中心にした活動の記録	Ａ	・広報紙「ふくし」の発行、年２回、１回１．３万部、専門委員会５部門の活動紹介 ・構成団体、関係機関の役割と関連性の紹介の工夫 ・福祉活動写真ニュースの発行、年２回 ・写真パネルによる情宣活動の改善 ・写真を中心にした活動の記録	・町内自治会加入者（会員）には配付しているが、約４０％に上る未加入者（非会員）には配布できていないので、配布方法を検討する。 ・構成団体や関係機関との関連性を理解し、参加や利用することの有益さに気づくよう記事内容と構成を検討する。
２ 子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流	・中学３年生の思春期ふれあい体験学習に子育てサロン参加の親子が講師として協力する。 ・核家族で体験できない子育て中の親の思いや乳幼児の取り扱いを体感する機会にする。 ＊夏休みや日曜日に小学生が集える場として高齢者と交流する機会を設ける。	・土気地区４中学校の内、３中学校で各１回ふれあい体験学習を実施する。感染症予防のための制約が緩和されたので親子の参加を再開する。 ・小中学生マラソン大会の代案行事への参加断念 ＊既存の事業の中で小学生が参加できる事業、機会を検討する。	Ｂ	・ふれあい体験学習協力—４中学校の指導計画により各１回、親子で参加協力する。 ＊全住民対象の事業、サマーフェスティバルと昭和の森ウォークラリーに子どもがグループで参加し、楽しめるように改善する。 ＊７月と８月のポッチャサロンへの参加に向けて学校を通して働き掛ける。	・各学校に協力する活動で、多くの親子が交流体験を増せる機会とする。 ＊多世代との関わりが広く体験できる機会となるよう各事業の内容と運営の仕方を工夫する。 ＊育成委主催行事への支援の仕方を検討する。
３ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	・サロン活動、散歩クラブ、ふれあい食事会への参加の意義を再確認して、各活動の質的改善と量的拡大を図る。 ・各活動の質的改善のために他会場での取組みを活用しやすいように活動内容のファイル化に努める ・各活動、各会場での会員と支援者の増員を図る一方、未設置地区での新設及び参加希望者の隣接会場での受け入れ態勢づくりを図る。	・いきいきサロン—１９箇所、２１２回の実施、会員延１８６７人、支援者延８５９人参加。参加率は回復する。 ・ポッチャサロン—１０回の実施、会員延１２４人、支援者延７６人参加 ・散歩クラブ—５箇所、６０回の実施、会員延２４２人、支援者延７４人参加、実施回数は回復、参加率は回復していない。 ・ふれあい食事会—土気、越智ともに調理ボラの人員不足のために隔月を実施。会員数も定員に達しなく、調理ボラと会員の募集に努める。	Ａ	・いきいきサロン １９箇所、ポッチャサロン月１回実施。会員数前者２５４人、後者３１人。休止中１箇所の再開を目指す。 ・ファイル化した好評な内容の活用等により会員の参加率を高める。 ・散歩クラブ—５箇所で実施、第２サロンの発展として散歩クラブを新設する。 ・散歩しながらの取組みを工夫し、活動への関心を高めて会員の参加率の向上を図る。 ・ふれあい食事会—２箇所で隔月の実施、調理ボラを募集して月単位の実施を目指す。 ・公的機関の協力により越智でも健康相談を実施する。	・各活動の実施回数の回復にとどまらず活性化と質的向上を図り、満足感が得られる活動にする。 ・活動のファイル化に努める一方、映像を利用した活動ができるよう用具、設備の補充に努める。 ・高齢化した会員と支援者の活力づくりと世代交代を目指して新規募集法を工夫する。 ・未設置地区参加希望者を受け入れる態勢づくり及び新設に向けた働き掛けを工夫する

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
4 障害者（児）・その家族 が集う場の開設・拡 充 ・情報提供	・各種福祉施設や団体との共催事業として人とのふれあいをテーマに、障害者による演技や製作生産品に触れながらの交流を通して福祉に関する各種の取組みに関心を持ち、理解を深める機会とする。 * 障害者と交流する場を各種活動の中に位置付ける。	・ふれあい福祉フェスティバルー10月2日間バーズモール広場、共催団体13、出演団体12、演技や製作生産物品の販売を通して交流 ・ブースでの写真パネル展示と小物づくりによる情宣活動と交流、ひまわりの会との共催による出演は辞退 * ボッチャサロンー10回実施、公民館、高齢者と障害者が楽しめるスポーツとして交流を図る予定だが、障害者への働き掛けは準備中で未実施	B	・ふれあい福祉フェスティバルー10月に2日間、共催団体14、出演団体は多数予定、演奏や製作生産物品の販売等による交流 ・ハッピーフレンドのひまわりの会との共演 ・写真パネルの展示と小物づくりによる交流 * ボッチャサロンー4月から月1回実施、5月末会員高齢者34人、障害者0人、障害者の参加に身体障害者連合会の協力を得る予定 * 障害者の参加を高齢者と支援員が受け入れる態勢づくりに努める。	・パネル写真の単なる展示から情宣活動を意識したパネルの一新と展示法を工夫する。 ・障害者施設の取組みを体感し、その思いや願いを踏まえた地区部会活動の具現化を図る。 * 障害者への対応で感じている不安と対処法を検討し、楽しみながら共生できるようにする。
5 子育て中の親や子ども が集う場の開設・拡充	・乳幼児が自由に遊べ、親が仲間づくりできるよう見守りを重視した活動とする。 ・室内だけでなく屋外活動も取り入れる。 ・支援員の専門性を補い、親の育児を高めるために保健指導員による育児相談会を実施する * 4 中学校3年生の学習に協力参加する。	・子育てサロンー2箇所×12回実施、2回は野外活動、1回はクリスマス会支援者延214人、会員延431人で、会員の参加は大幅に増える。 ・ガイドラインを踏まえた活動になるよう安全・安心の確保に努める。 ・保健福祉センター保健指導員による歯科を中心とした相談会は2回とも中止する。 * 3 中学校の思春期ふれあい体験学習へ親子で参加し、触れ合い、語り合いながら相互理解を図る。	A	・子育てサロンー2箇所×12ヶ月の予定、2回は昭和の森での野外活動 ・親子への直接的な指導ではなく見守りに重点を置いた活動になるようにする。 ・保健福祉センター指導員による育児相談会は2回予定 * 思春期ふれあい体験学習ー土気地区4中学校での学習に親子と支援員が参加協力する。	・幼児の遊びと親の情報交換や仲間づくりが効果的に出来るように遊び場と語り合う場を工夫する。 ・不安感の緩和もあってもか参加者も増えているが、従来の参加数には達していない。新たな参加者として公的機関による推称にも堪えられる態勢づくりに努める。 * 中学校の学習計画の意図の理解を図り、参加協力のあり方を検討する。
6 地域の行事への積極的 参加の呼びかけ、文化の 伝承	・各種行事の取組みに共催、協賛団体として参加し、つながりづくりに努めるとともに、地区部会の理解を広めていくための情宣活動に取り組む。 * 他団体が主催する行事にも会員が積極的に参加することを勧め、地域全体が交流する機会を増やす。	・土気南中区敬老会ー町内自治会、民児協との共催、感染症予防のために中止 ・とけサマーフェスティバルー町内自治会、育成委、サッカークラブ等との共催 ・小中学生マラソン大会ー育成委主催で中止、新行事への支援要請なく静観中 ・プラザまつりー展示部門への参加を予定、日程が重なり参加を断念 ・ふるさとまつりー実行委として計画作成に参加、区社協の取組みに協力	B	・土気南中区敬老会ー対象者が増加し、収容しきれないので今後中止。町内自治会単位での開催には依頼により協力する。 ・サマーフェスター開催に向けて進行中、参加の意義を高めるために活動内容の再検討 ・マラソン大会に代わる行事への協力 ・プラザまつりー展示部門での交流活動と情宣活動 ・ふるさとまつりー地区部会としての協力参加の仕方について検討	・共催、協賛事業は個々の事業のねらいは異なるが、共通している地域のつながりづくりについては一層理解を深めていく。 ・許容されている範囲での情宣活動を工夫し地区部会の理解と活動の拡大に役立てる。 * 地域住民の社会参加の意義を再確認しながら現状に甘んずることなく進展していけるよう地区部会のあり方も見直す。

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
12 防災訓練の充実、意識啓発、体制整備 (重点取組項目)	- 各地区の自主防災組織による諸活動への協力と地区部会に期待される取組みについての検討に努める。 * 推進員、支援員、さらには活動会員の災害時に備えた意識啓発に努める。 ※災害発生時の状況把握、特に高齢な活動会員の速やかな把握のための連絡体制づくりに努める。	1 地区の自主防災組織から要請されているが他からはなく地区部会の取組みとして検討するには至っていない。 * 市防災対策課の出前講座で「災害への備え」について研修、受講者45名、未受講者には資料による自己研修を勧める。 ※話題にする程度で検討するまでには至っていない。	C	- 各自主防災組織は災害発生時の対応に力点が置かれがちである。地区部会としては発生前の対応から検討することとする。 - 転倒防止、備蓄品保存等 * 出前講座の未受講支援員が準備や心構えについて理解を図るよう機会ある度に確認するとともに会員の意識啓発にも取り組む。 ※各サロンやクラブ単位で担当者が中心になり活動会員の状況把握に努める体制づくりをする。	- 自主防災組織からの要請を待つ一方、出前講座を足掛かりにして地区部会として取組み可能な対応について検討する。 * 高齢会員は、意識が高まっても行動化できない方もいる。転倒防止等は必要によっては「助け合い活動」に位置づけていく。 ※日頃の各種活動における出欠席の状況把握を災害時の対応の素地づくりとする。
13 災害時ボランティア活動の充実	- 地区部会の日頃の活動で災害時に活かせる取組みと新たに期待される取組みについて検討に努める。 * 地区部会関係者、特に高齢な活動会員の速やかな状況把握のための体制づくりに努める。 ※日頃の活動のための応急手当の習得が災害時に活かさないか検討する。	- 各活動への参加は任意で、欠席者への対応がなおざりがちである。連続欠席者の状況把握に努め、災害時の速やかな状況把握に活かせるようにする。 * 困り事への対応としての日頃の活動は少ない。助け合い活動を広めるとともに支援員の増員に努め、災害時の活動につながるようにする。 * 救急救命法講習会を2年連続して実施。災害時は想定外であるが万一に備えて応急手当の習得に努める。	C	- 一定期間連続欠席者の状況確認を確実にし、災害時の状況把握の体制づくりにもつなげていく。 * 困り事を抱える高齢者が増えているはずであるが、助け合い活動が広まらない。取組む地域を広げるとともに支援員の増員を図り、災害時助け合いの下地作りに努める。 * 出前講座による「災害の備え」についての理解を支援員から活動会員に広める。 - 家具の転倒防止と安全確保、備蓄品等	- 災害時の自己被害を最小に食い止める準備を通し、自力ではできないことを助け合って取り組んでいけるようにする。 * 災害時の素地づくりがあってこそ活動につながるという考えに立ち、日頃の各種活動での欠席者の状況把握や助け合い活動の拡大及び支援員の増員に努める。 * 緊急事態発生時の通報や救急車到着までの待機中の対応として応急手当の一翼を担えるようにする。
15 助け合い活動の推進・外出困難者への支援	- 高齢者の困り事を把握し、助け合い活動の必要性の理解とその対応について働き掛ける。 - 日常的なゴミ出しの支援を足掛かりに軽作業などの取組みに拡充していく。 - 外出困難者の買い物や通院の手段として既存の社会資源を紹介する一方、各地区での取組みを拡大する。 - 困り事を気軽に打ち明けられる土壌づくりに努める。	- 大木戸台、大椎台の活動や定例会に在住推進員を中心に支援役、推進役として参加する。 - はなみずき台を含めた3団体の活動内容や運営法を紹介し、他地区の開設に向けて働き掛ける。 - 介護施設等の4団体の配車協力により外出困難者が無料利用できるようになる。 - 車を利用するにあたっての要件の共通理解に努めるが不十分さがある。 - ここ数年、他での開設に至っていない。	C	- 既存3団体は確実に実績をあげている。支援役として引続いて協力、支援に努める。 「シニア支援の会」の動機や歩みを好事例として他地区の働き掛けに活用していく。 - 各種会議や活動で情宣に努めるが、発案者待ちでもある。働き掛け方の改善を図る。 - 買い物支援として移動販売や配送サービスの実施状況の把握に努める。 - 路線バスの縮小や廃止に伴い、買い物等の困難者の発生状況の把握に努める。	- 地域の実情には違いがあり取組み差が出るが、共通した困り事を中心にしながらも地域に応じた助け合い活動を広めていく。 - 好事例の紹介による発意を期待しているが、より積極的にアンケート調査も検討していく。 - 民間の移動販売や配送サービス、介護タクシーや福祉タクシーの利用ができない場合を想定した助け合い活動として推進する。 - 助け合い活動の不拡大には、つながりの希薄さにも要因があると考え、既存の各種の交流のあり方を多角的に見直す。

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
16 見守り活動の推進 (重点取組項目)	・助け合い活動と関連する活動として位置づけて一人暮らしで孤立気味の高齢者を定期的な調査結果などを足掛かりに把握する。 ・閉じこもり→老化→要支援→要介護の流れの断ち切りと改善の必要性について理解を図る。 ・困り事を気軽に打ち明けられる土壌づくりこそ基礎になるという認識で、普段の交流の拡充と既存の活動の紹介に努める。	・3自治会の活動に支援役として参加、運営補助金でも支援する。 ・大椎台—対象者2名、協力者15名、1名を2,3人で担当し、外部からの観察を中心に毎日実施 ・大木戸台—対象者10名、協力者5名、ゴミ出しも手伝い毎週2回実施 ・あすみ第一—対象者8名、協力者17名5ブロックに分けて月1,2回実施 ※さりげない見守りとして希望調査 ※地区による対象者の増減という相反する状況の発生要因を検討する。	C	・3地区の支援事業として取り組む一方、他地域でも発案者や協力者が出るよう働き掛ける。 ・既存の防犯パトロールなども足掛かりに、見守りパトロールや見守り活動へと進展できないか働き掛ける。 ・アンケート調査による希望者の割り出しが期待されるが、対象者の複雑な思いを考慮して直接的な実益も感じられる活動にする。 ・見守りとゴミ出しは、孤立の防止や困り事の手助けになるのでセット化を奨励する。	・地域の歩みや高齢化率に違いがあるので見守り活動の必要度の高い地域の割り出しに努める。 ・見守りだけでは希望者が減少しがちな地区には、軽度の困り事にも対応して孤立の防止に加えて安心づくりや交流づくりにも努める。 ・新たな活動を組織する負担感を薄めるために既存の活動を活用する是非について検討する。 ・推進員在住地区の独居高齢者の生活状況を民生委員の調査などを参考に把握する。
17 健康づくり支援 (重点取組項目)	・公的機関や専門家による地域住民への直接的指導、推進員と支援者の専門性を補う研修を通して確かな取組みができるようする。 ・活動会員だけでなく、すべての住民が参加できる事業により交流の場を拡大するとともに、心と身体の健康づくりができるようにする。	・各サロンで保健福祉Cによる指導を年1回、あんしんケアCによる指導を2年に1回受ける。リハビリ専門職による指導は希望調査により実施する。 ・健康講演会—保健福祉C推奨講師、全住民対象だが講師の都合により中止 ・ボランティア研修会—保健福祉C推奨講師の指導は中止 ・昭和の森ウォークラリー—連協、スポーツ振興会との共催で全住民対象、11/23に5年振りに実施、	B	・各サロンでの保健福祉CとあんしんケアC及びリハビリ専門職による指導で専門性を高め、各種活動に活かす。 ・健康講演会—保健福祉C推奨講師による全住民を対象とした指導を受ける。 ・ボランティア研修会—健康づくりのための実技を支援員が研修し、その成果を各種活動の中に取り込んでいくようにする。 ・昭和の森ウォークラリー—子供から大人200人の参加を想定し、多彩な活動と交流により絆づくりに努める。	・各サロンで受けた指導による取組み状況を情報交換して活動の質的改善を図り、一層の意欲化と効率化に努める。 ・活動の自粛に伴い表面化したフレイルには複数の側面がある。それこそ心と身体の健康づくりのために生活習慣の改善や、本会だけでなく他団体の活動への積極的な参加を勧める。

緑区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 土気地区町内会自治会連絡協議会

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※ Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
１ 情報の収集と共有化	住民が、地域でどのような交流、ふれあいの機会、行事を要望しているかを把握します。自治会の回覧や地区部会の広報誌を利用し情報をみんなで共有できるように努めます。	・回覧や広報誌を利用し、情報の共有が図れるようにする。又、その情報に対して住民がどのような要望を持っているかを把握する。（美空台自治会） ・自治会の各部会により、地域でどのような交流、ふれあいの機会、行事を要望しているかを把握する。 ・自治会の回覧や広報誌を利用し、情報をみんなで共有できるように努める。	Ｂ	・自治会の各部会により、地域でどのような交流、ふれあいの機会、行事を要望しているかを把握する。 ・自治会の回覧や広報誌を利用し、情報をみんなで共有できるように努める。	
２ 子ども達の集いの場の提供、 情報提供、地域と学校との交流	子ども達の学習を地域でみまもり、アフタースクールや公民館・図書館等での学び。体験学習を支援するほか、児童・生徒が福祉に対する理解を深められるよう、福祉教育に協力します。 また、こども食堂等により、経済的に困窮しているこどもの支援等を行います。 また、こども食堂等により、経済的に困窮している子供の支援等を行います。	・土気地区連協の４中学校区では学校後援会を組織し、小中学校に活動等の支援活動を行っている。（各自自治会） ・子ども達の学習を地域で見守り、体験学習を支援するほか、児童・生徒が福祉に対する理解を深められるように、福祉教育に協力することができるよう、青少年育成委員会及び委員との連携を図る。「とけサマーフェスティバル」や「あすみが丘クリスマス音楽祭」、「大椎中学校ボランティアクリーン作戦」、「ポッチャ大会」等の行事を予定している。 ・大椎中学校区後援会として、小中学校の活動に対する理解を深められるよう、福祉教育に協力する。 ・学校だよりの回覧	Ｂ	・大椎中学校区青少年委員会と連携を図る。児童、生徒が福祉に対する理解を深められるよう、福祉教育に協力する。 ・学校だよりの回覧	
３ 高齢者が集う場の開設・拡充 ・情報提供	土気いきいきサロン 社会奉仕兼ウォーキング (ゆうゆう散歩) ふれあい４・いきいきサロンや散歩クラブ等、高齢者が集う場の設置を推進します。高齢者の状況を把握し必要としている情報について関係機関（あんしんケアセンターやいきいきプラザ等）に紹介します。	・社会福祉協議会と共催事業 平成３０年５月発足 毎月第４木曜日定例実施 参加人員 １５～２０名（土気団地自治会） ・社会福祉協議会と共催事業 毎月第２月曜日 街路のゴミを拾いながら１時間半程度ウォーキング 毎回７名程参加（土気団地自治会） ・ふれあい４・いきいきサロンや散歩クラブ等、高齢者が集う場の設置を推進するため、社協土気地区部会の福祉活動推進との連携を図る。 (あすみが丘８丁目町内会：８丁目サロン) (あすみが丘南自治会：あすみが丘南サロン) (あすみが丘第三自治会：７丁目サロン)	Ｂ	・ふれあい４・いきいきサロンや散歩クラブ等、高齢者が集う場の設置を推進するため、社協土気地区部会の福祉活動推進との連携を図る。 (あすみが丘８丁目町内会：８丁目サロン) (あすみが丘南自治会：あすみが丘南サロン) (あすみが丘第三自治会：７丁目サロン)	
７ 子ども会の活性化	住民全体で、「子どもは地域で育てる」という意識をもち、子供たちの活動に積極的に参画し、活動内容を充実させ、新規加入を促進していきます。	・自治会として補助しているが、子供が減って活動は低調になっている。現在土気住宅を含めて小学生１０名（土気団地自治会） ・住民全体で「子どもは地域で育てる」という意識をもち、子ども会の活動に積極的に参画し、活動内容を充実させる。（あすみが丘南自治会）	Ｂ	・住民全体で「子どもは地域で育てる」という意識をもち、子ども会の活動に積極的に参画し、活動内容を充実させる。（あすみが丘南自治会）	

	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※ S/A/B/C	R6年度計画 いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
8 老人クラブの活性化	高齢者が仲間づくりの輪を広げ、生きがいをもって生活してけるよう、サークル活動等の充実に努め、老人クラブの活性化を図ります。 また、子ども会と連携し、お互いの交流を図ります。	・平成3年2月発足 サニークラブと称し活発に活動 (現在会員数33名) ゆうゆう散歩、団地内パトロール、朝のラジオ体操、誕生会、同好会活動支援等広範に活動している。(土気団地自治会)	B		
9 町内自治会の活性化	町内自治会への参加を促進し、住民の地域福祉活動への関心を高めます。	・住民による団地内清掃毎月2階実施 住民有志による団地内2カ所の公園の花壇の植栽管理、老人クラブ、子ども会、同好会支援実施 (土気団地自治会) ・町内自治会活動の周知を進め、活動への関心を高める。役員主体になっている各種活動に対して、理解と協力を仰ぐ。 (美空台自治会) ・自治会イベントの開催 納涼会の復活(8月5日開催) 集会所清掃(1回/月)、一斉清掃等のイベントを行い、住民同士の関係を密にする。(土気住宅自治会) ・町内自治会への参加を促進し、住民の地域福祉活動への関心を高める。(土気南自治会)	B	・町内自治会への参加を促進し、住民の地域福祉活動への関心を高める。(土気南自治会)	・自治会加入率の低下(退会者の増加) ・自治会員の高齢化
11 生活環境の整備	高齢者や障害者の生活環境の整備の観点から、道路表面の案内表示のサイズや色の統一について 道路関係部署等に要望します。		B		
12 防災訓練の充実、意識啓発、体制整備	防災組織 防災訓練・備蓄品等の充実 ・家庭において避難場所の確認や防災用品の準備等を行うよう、意識啓発に努めます。 ・地域における防災訓練の充実を図り、地域での意識啓発意識啓発や避難誘導体制・情報伝達体制の整備、避難行動要支援者名簿の活用、地域諸団体の連携に努めます。 ・町内自治会集会所、防災組織の集会所等の施設を活用した連絡拠点の整備、防災備品の充実等に努めます。 地域における意識啓発	・防災訓練の充実 地域における自主防災組織活動の充実を図るとともに、災害時の避難場所、避難所の確認や複数避難経路設定の周知徹底に努めます。 (土気町内会) ・防災訓練の充実、意識啓発 集会所の地域避難場所申請、防災学習の実施、防災備品の充実、近隣自治会と共同で防災訓練の実施 (高津戸町内会・梅ヶ丘自治会) ・10月中峠集会所において、緑消防署土気出張所の職員からの指導の下、防火防災訓練を実施した。訓練内容(防災ビデオの鑑賞、折り畳み担架の取り扱い要領)20名参加		・支援希望者リスト・支え合いカード・協力者リストの更新 ・避難訓練の団地内実施の検討 ・10月中峠集会所において、緑消防署土気出張所の職員からの指導の下、防火防災訓練を実施予定(消火器の取り扱い要領) ・避難所開設訓練(8月25日) ・防災備品倉庫の備品確認(年2回) ・自主防災訓練(10月) (あすみが丘第3自治会) ・家庭において、避難場所の確認や防災用品の準備等を行うよう、広報誌に防災マップや防災計画等を掲載して意識啓発に努める。	・コロナ後の団地内避難訓練を行うか検討 ・地域避難所として申請すべきかの意見交換 ・自治会員の高齢化が進んでおり、訓練中の怪我や事故を回避する必要があることから、防火防災訓練等の訓練内容も十分な配慮が必要である。

	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※ S/A/B/C	R6年度計画 いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
		・自治会防災から、各家庭に家庭用消火器を配付し啓蒙に努めた。今年度は10月に団地全体の防災訓練を行う予定。 (紅葉ヶ丘団地自治会) ・家庭における意識啓発 家庭において、日頃から避難場所の確認や防災用品の準備等を行うよう意識啓発に努めます。 (土気町内会) ・防災訓練の充実、意識啓発、体制整備 大椎中学校避難所運営委員会では、あすみが丘8丁目自主防災会と協働して、避難所開設・運営訓練及び防災訓練を行う。また、防災普及車を用いた地震体験や煙体験訓練、救命救急訓練(AEDの取り扱い)通報訓練等、外部団体からの支援を受けて訓練の充実を図る。 ・九都県市合同防災訓練 1～15避難所運営委員会で8月27日実施 ②土気小学校 ③土気公民館 ④土気市民センター施設管理者、市職員、避難所運営委員総勢59名参加 ・避難所開設訓練(8月27日) ・防災備品倉庫の備品確認、棚卸整理(7, 9月2回) ・自主防災訓練(10月14日)65名 (あすみが丘第3自治会) ・家庭において、避難場所の確認や防災用品の準備等を行うよう、広報誌に防災マップや防災計画等を掲載して意識啓発に努める。 ・あすみが丘消防署と連携のうえ、避難&防火・防災訓練の実施、及び大椎小学校避難所開設・運営訓練を実施して、地域での意識啓発や避難誘導體制の整備、地域諸団体との連携強化に努める。 ・町内自治会集会所を活用した連絡拠点の整備、防災備品等の充実等に努める。 (あすみが丘南自治会) ・令和5年11月4日(参加20人) あすみが丘第一自治会として防災訓練実施(自治会役員各自の自宅から避難所への路線確認及び避難所施設の確認) ・令和6年3月2日(参加30人) あすみが丘第一自治会及び土気南避難所運営委員会と合同実施(停電や断水を想定した炊き出し訓練) (あすみが丘第一自治会) ・10月8日防災訓練実施 ・防災会議開催(3回) ・町内会での食糧備蓄基本方針策定 ・大椎中学校避難所運営委員会開催(5回) ・あすみが丘8丁目防災倉庫備品在庫確認 (あすみが丘8丁目町内会)	A	・あすみが丘消防署と連携のうえ、避難&防火・防災訓練の実施、及び大椎小学校避難所開設・運営訓練を実施して、地域での意識啓発や避難誘導體制の整備、地域諸団体との連携強化に努める。 ・町内自治会集会所を活用した連絡拠点の整備、防災備品等の充実等に努める。 ・防災リーダー養成講座等各種研修会への参加を検討する。 ・避難行動要支援者対策等を検討する。 (あすみが丘南自治会) ・令和5年度と同様の時期・規模により年2回実施予定 ・防災訓練(10月) ・防災会議(5回) ・大椎中学校避難所運営委員会出席 ・備品食糧検討追加購入 ・各家庭において避難場所の確認、防災用品の準備など行うよう意識啓発す。(役員会・回覧板) (あすみが丘8丁目自治会)	

	取組の概要	R5 年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5 年度 達成状況 ※ S/A/B/C	R6 年度計画 いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
1 3 防災ボランティア活動の充実		・防災ボランティア部員、人材リーダーを募集し、体制の強化を図る。	B	・防災ボランティア部員、人材リーダーを募集し、体制の強化を図る。	・人材の確保
1 4 身近な防犯、安全対策	・防犯パトロールを組織し、地域単位に自主防災活動を展開します。また、パトロール中に防犯チラシを配布し注意喚起に努めます。町内、商店等に防犯ポスターや防犯チラシを配布し、注意喚起に努めます。町内、商店等に防犯ポスターやステッカーを掲示し、防犯意識の向上と犯罪抑止を図ります。さらに、空家のチェックリストを作成し、点検します。	・防犯パトロール隊 土気地区には、千葉南警察署管内防犯協会登録 20 団体緑区登録 18 団体あり 週 1～2 回拡声器と拍子木を使って巡回実施 ・自主防災組織 土気地区 46 自治会の内自主防災組織の結成は 37 団体 残り 9 団体に結成を促す 自主防災組織の規約に基づく、防災備蓄品の購入及び工具類の補充 ・青色防犯パトロール ・青パト車 2 台使用 緑区 5 地区誉田・椎名・土気・おゆみ野・平山で輪番 土気地区 4 中学校区で年間 21 週 147 日実施 1 自治会年間 3.2 回 ・夜間防犯パトロール(17 回) 毎月 2 回実施延べ 106 名 (あすみが丘第 3 自治会) ・自治会の交通防犯部員による防犯パトロールを実施する。 ・一般住民による住民防犯パトロール、愛犬家によるわんわんパトロールを実施する。 ・千葉南警察署との連携による青色防犯パトロールへの参加、協力を行う。 (あすみが丘南自治会)	A	・夜間防犯パトロール(毎月 2 回実施予定) ・青色防犯パトロール実施(年 5 回予定) ・自治会の交通防犯部員による防犯パトロールを実施する。 ・一般住民による住民防犯パトロール、愛犬家によるわんわんパトロールを実施する。 ・千葉南警察署との連携による青色防犯パトロールへの参加、協力を行う。 (あすみが丘南自治会)	・広報活動の推進 ・高齢化の進展に伴う、見守り対象者の新規参入に対する具体的施策と助け合い活動の参入の検討 ・自治会と民生児童委員との連携強化
1 5 助け合い加圧道の推進・外出困難者への支援	日常生活の困りごとや外出困難者を支援するため、既存の社会資源(移送サービス・移動販売等)について情報提供あするほか、必要な体制づくりに努めます。	・イオンリテール株式会社の協力を得て、土気・越智中学校区の各所で週 1～2 回移動販売実施 ・高齢者ゴミ出し支援 ・あすみ見守り隊平成 27 年発足 高齢者の見守りのため現在も継続中 月 1 回の定例会開催や、自治体ブログで広報をしている。 (あすみが丘第一自治会)	B		
1 6 見守り活動の推進	・一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、体に障害のあるかたなどの見守りを希望する人に対して、地域住民による訪問・声掛け等を行います。 ・社会的孤立を防ぐため、挨拶運動など、住民同士が日常生活のなかで無理なく行える見守り活動を実施します。 ・一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、体に障害のあるかたなどの見守りを希望する人に対して、地域住民による訪	・全住民で両隣を見守りを行うのが原則(おおかぶ会(会員 200 名)互助活動組織と協力) ・学童の登下校時の交差点で見守り ・自治会各般で高齢者や 1 人住まいの方に声掛け、訪問するようにしている。 ・千葉市高齢者緊急通報システム・千葉市安心電話事業案内の利用を促す。 ・15 名ほどの見守り支援が必要。回覧は手渡しを基本に実施している。 ・何代も続いている向こう 3 軒両隣精神が薄らいできている。一人暮らしの見守りを組長、班	B	・令和 6 年度の新規募集を図るも、参入者なく、今年度も引き続き、見守り対象者：8 名、見守り協力員：17 名で、令和 5 年度と同様の活動を展開する。 ・一人住まいの方への見守りパトロール「外部からの見守り」の実施。独自リスト 37 名 (あすみが丘第一自治会)	・広報活動の推進 ・高齢化の進展に伴う、見守り対象者の新規参入に対する具体的施策と助け合い活動の参入の検討

	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※ S/A/B/C	R6年度計画 いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
	問・声掛け等を行います。 社会的孤立を防ぐため、挨拶運動など、 住民同士が日常生活のなかで無理なく 行える見守り活動を実施します。	長等にて実施している。 (土気町内会) ・挨拶運動など、住民同士が日常生活の中で無理なく行える活動を実施し、高齢者や子供たちの見守り活動を行う。 (美空台自治会) ・一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、体に障害のある方などの見守りをする希望する方に声掛けを行います。 (土気町内会) ・自治会エリアを5ブロックに分け、1組3名から6名の5つの班を編成し、ブロックごとに担当班を決め、見守り活動を行っている。 ・併せて、独自リストに基づく一人住まいの方の外からの見守りパトロール実施 ・活動は1回1時間程度を2回「対面による」安否確認と「外部からの見守り」双方を申込者の希望に応じて行っている。 ・協力員は名札、腕章、帽子、制服等の活動グッズを着用し活動 ・令和5年度、見守り対象者：8名 見守り協力員：17名 (あすみが丘第一自治会) ・一人暮らし高齢者世帯への声掛け、地域内の定期的な見回りを行う。 (梅ヶ丘自治会) ・民生委員からの情報収集 一人住まい高齢者の毎日の声掛け見守り体制確立 (高津戸町内会) ・セーフティウォッチャー 子供の通学見守り活動 土気小より委託の2名が活動 ・災害時支援希望者リストを作成し、団地内各班長が状況を共有し、災害時の声掛け、訪問をする体制づくり (土気団地自治会) ・一人暮らしの高齢者等には、月2～3回の回覧		・民生児童委員と協力し、子どもの見守り、高齢者への定期的な声掛け訪問などの仕組み作りの検討 ・継続して、8丁目いきいきサロンを開催しコミュニケーションを図る。 (あすみが丘8丁目町内会) ・納涼会や集会所清掃(1回/月)一斉清掃のイベントを行い住民同士の関係を深め、困りごとを気軽に打ち明けられる土壌づくりをする。 (土気住宅自治会)	・自治会と民生児童委員との連携強化 ・民生委員の持つ情報には、公開してはならない物もあるため情報共有には注意を払い活動することが必要 ・メンバーを増やすこと

	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※ S/A/B/C	R6年度計画 いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
		を廻すときには、ポストに投函するのではなく直接手渡しを心がける。 ・町内会館にて8丁目いきいきサロンを開催(12回) ・社会福祉協議会、ボランティアを含め、茶和会、クイズ、体操、歌などを実施コミュニケーションを図った。 (あすみが丘8丁目町内会)			
17 健康づくり支援	・健康を保持する活動を保険福祉センター、あんしんケアセンター及び地域の医療機関等の協力を得て、地域の集会やイベントの機会を利用して実施します。 ・ラジオ体操、シニアリーダー体操、健康ウォーキング等へ積極的に参加する仕組みづくりを推進し実施します。	・平成26年9月発足 第一公園で毎朝6時30分からラジオに合わせて実施。毎回20名前後が参加 (土気団地自治会の他 山の谷・楓台・梅ヶ丘合計30名) ・大勢の人との関わることを嫌う住民がいる。本人がやりたいこと、希望を聴取し、本人に合った健康づくりを提案する。 (高津戸自治会)	B		
18 地域の課題解決に向けた連携	地域の関係書団体・機関が連携し、課題解決に向けて話し合う場として、知己ケア会議等を開催します。	・会員の敷地内の植栽管理(枝の剪定)や雑草管理について支援可能な町内会員と受けたい会員が話し合い、協働で作業を実施する仕組みをつくる。 (土気本町1組町内会)	C		

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 第５０４地区民生委員児童委員協議会

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
３ 高齢者が集う場の開設・ 拡充・情報提供	高齢者の居場所づくりの協力 ・千葉市および緑区の福祉行政に係わる諸活動の協力 一斉調査・実態把握実施 ・千葉市社会福祉協議会の諸活動への協力 ・新規いきいきサロン土気団地開設	・いきいきサロン高津戸町内会館２０人、土気団地２０人 オレンジカフェたんぽぽは おひさま２０人、コミュニティカフェお茶っこは、高津戸町内会館にて２０人 あんしんケアセンターの支持を仰ぎながら実施した ・地域の活性化を図るために協力した。 ・フレイルにならない研修を重ねた。	Ａ	・いきいきサロンは各所で開催 第２木曜日 第４木曜日実施 ・オレンジカフェたんぽぽは、第１，３木曜日に ２班に分けて実施 ・お茶っこは、町内会館にて第４水曜日 ・理学療法士、保健師、歯科衛生士、栄養士、薬剤師等講師の充実を図りたい	・高齢者の皆さんに家にこもりがちなならないように外に出る機会、集まり、情報交換し、社会と係わりながら、健康的に生活できる手伝いを企画し、又は詐欺などの被害に遭わない指導を継続する。 ・楽しく、安心な運営を実施したい。 ・健康寿命の続きの手伝いを継続する。
５ 子育て中の親や子ども が集う場の開設・拡充 ６ 地域の行事への積極 的参加の呼びかけ、文化 の伝承	子育てサロンや地域活動への協力 土気地区部会や町内会・自治会等の諸活動への協力を行う	・ふれあい体験学習の運営に協力し、子どもたちに命の尊さについて感じる機会を与える。 ・不登校生徒の家庭訪問、母子家庭の生徒の家庭訪問、母親の電話で相談受けた	Ａ	・土気中学校３年生の生徒と土気地区部会子育てサロンの参加者の交流会として楽しみにしてもらっている。 ・学校の教頭からの情報交換	・ふれあい体験学習については、来年度も引き続き協力していきたい。 ・また見守り活動は、今後も引き続き継続して活動していきたい。
１１ 生活環境の整備	地域環境の改善 学校区内の危険個所の特定、通学路の整備を促進する	・２３連協、スポーツ振興会、土気地区部会が共催で実施している昭和の森ウォークラリーへの協力を行う ・土気地区小・中学校ポッチャ大会にスタッフとして協力参加 ・空き家の問題に取り組む 庭木・鳥・動物	Ａ	・昭和の森ウォークラリー ・土気地区小中学生ポッチャ大会 ・所有者と連絡して対処する	・昭和の森ウォークラリーは、スタッフとして、また地域小中学生のスポーツ大会でもスタッフとして参加者のために協力する予定である。 ・空き家は増える傾向にあるため 地域振興課に実態を知らせて協力を仰ぎたい
１８ 地域の課題解決に向けた連携	地域ケア会議への参加 あんしんケアセンター主催の地域ケア会議「見守りネットワーク土気会議」に参加している	・地域ケア会議に参加し地域の情報共有や共有事項の守秘の厳守と課題解決に向けて話し合いの場に参加する。 ・推進、連携を強めていく ・市交通政策課と高津戸の問題点を考える ・７０５０問題に自立支援センターに相談にのってもらえるように依頼された	Ａ	・月１回の「見守りネットワーク会議」に参加し、地域の関係機関と連携し情報共有 ・千葉市交通政策課の会議参加 高津戸町内会館 ・高津戸の乗り合いタクシー開設、隣接地益に広がる、〔足〕の問題の解決に取り組んで継続している	・今後も継続参加し、地域のために情報交換し 共有し合いながら福祉関係の点で力を注ぎたい ・地域の足の問題等の声に応えるためにも利用の推進と啓蒙を継続していく ・高齢者が元気と健康で生活できる社会参加にこれからも力を注ぎたい

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 第５０５地区民生委員児童委員協議会

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
14 身近な防犯、安全対策	空地・空き家の解消 空地・空き家のままにしておくことの 危険性・デメリット等の周知を図る	専門家を招いての勉強会 未済	Ｃ	町内自治会・管理組合等とタイアップ して啓発・勉強会を行う（年２回）	空地・空き家の慢性的増加
16 見守り活動の推進 (重点取組項目)	地区の見守り活動団体との連携 はなみずき台の「おおかぶ会」 大椎台団地の「助け合いの会」 大木戸台団地の「シニア支援の会」	それぞれの立場で何をなすべきか 効率的・効果的な方策の模索 定期的な会合の実施 独居中の後期高齢者へのケア 越智中学生徒会の協力により手製の クリスマスカード配布	Ａ Ａ	各活動団体への民生委員の積極的参 加・関与（随時・適宜） クリスマスカード配布の継続 つなぎ役としての民生委員の存在のア ピール（できるだけ月１回位は独居者宅 を訪問） つないだ後のフォローアップ	地域内の諸問題を解決するために各団 体相互が（言葉だけでなく）実際にどれだ け協調できるか 高齢者の増加、中学生の減少（今のところ 中学生は積極的に協力してくれている）
18 地域の課題解決に向け た連携 (重点取組項目)	地区内の町内自治会との関係の緊密 化 問題意識の統一化 地域ケア会議への参加・協力 見守りネットワーク土気会議 への参加	町内自治会長会議への参加継続 毎回参加 月例会議の実施 地域内の問題点・状況の共有 専門家による説明会の実施 (児童相談所、 生活自立仕事相談センター等)	Ａ Ａ	町内自治会長会議への参加の継続 継続	町内自治会長の一斉での交代 逆にそれだけ多くの人々が 地域の問題と関わることになる という積極面をいかに 伸ばせるか

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 第509地区民生委員児童委員協議会

※【達成状況の目安】 S：目標を上回った。/ A：概ね目標を達成した。（8～10割）/ B：一部目標を達成した。（5～7割）/ C：大きく目標を下回った。（～4割）

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
1 情報の取集と共有化	分野別の行政サービスの提供（新規）	・社協広報誌の発行回数（年2回）に合わせ、2回記事の寄稿を行い採用頂いた。	A	・R5年度同様に社協広報誌への記事寄稿を継続しつつ、住民に有益な情報が何か、どのように提供するのがベストか検討していく。	・多数の専門機関が発行している行政サービスを住民の身近に届くように、町内自治会の回覧板での提供
3 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供（新規）	・R6年度の検討課題とした。	C	・地元デビューしていない高齢男性の居場所作りを優先して検討する。	・可能な限り、既存の場所での拡大の一環として検討できないか検討すること。
12 防災訓練の充実・意識啓発、体制整備 （重点取組項目）	避難行動要支援者へのサポーター作り（新規）	・掲載されている対象者数が500名と非常に多く、優先すべき対象者の絞り込みを行うことが必要と判断した。 ・可能であれば防災対策課他とサポーター決定時期などの情報提供受けを計画したが、まずは我々のプラン作りをしていくことを優先事項とした。	B C	・防災対策課の優先対象者として介護度の非常に高い住民となっていることから、R6年度の高齢者実態調査時に介護認定受けの高齢者の認定介護度を確認することとし、下記の防災対策課の計画に該当しない対象者を検討対象とする。 ・町内自治会が抱える悩みなどの把握。 ・防災対策課での立案対象者は、①非常に介護度の高い人 ②土砂災害警戒区域に住む住民の合計4000人の支援者決定をR7年度までに決定することであり、可能な限り情報入手を図る。	・行政機関、町内自治会との打ち合わせを通じ、有効活用できるようにしていくこと。 ・避難所運営委員として活動する委員が名簿を有効活用できるようにすること。 ・関係機関の意見の聴取と見直し
	民生委員自身の意識高揚 住民への啓蒙活動	・一人の住民として委員も、取組の重要性の勉強	B	・継続した委員への啓蒙活動の実施	・名簿に掲載している住民への啓蒙チラシなどを定常活動時に配布し説明していくこと。 ・名簿に掲載されている住民の希望把握

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
14 身近な防犯、安全対策	地域内小・中学校との情報交換及び昔遊びの指導協力 児童の健全育成のためには、学校との連携を図り適切に対応する必要がある。 このため、学校との情報交換や昔遊びの指導を通し連携を密にする。	【情報交換会】 ・R5年1月実施予定だったが、コロナ感染症の影響あり延期した。 【昔遊び】 ・コロナの感染症分類が5類になったこともあり、12月に他団体の協力も受け実施できた。 (他団体から6名の協力を受け、1年生約120名を対象に実施)	C A	【情報交換会】 ・学校側と調整し実施の予定 【昔遊び】 ・学校側の希望日で実施する予定。	【情報交換会】 ・「要対協」で報告される被虐待児童・乳幼児が増加傾向にあり、対応方法の検討 【昔遊び】 ・児童たちの身近に居る祖父母の積極的協力を得て継続的に協力頂ける指導者確保の必要あり。
16 見守り活動の推進 (重点取組項目)	地区の見守り活動団体との連携 地域で行われている見守り活動団体と連携し、地域での見守り活動への協力を行う。	・あすみが丘第一自治会の「見守り隊活動会議」に担当民生委員が会議に参加し、情報提供やアドバイス等を行う一方、見守り対象者登録を行っていない「気になる高齢者」への対象者登録の呼び掛けを行っている。(会議参加者は、約10名)	B	・後期高齢者化の進展が著しい地区でもあり、見守り対象者への新規登録の勧誘活動を継続して実施していく。 ・核家族化が進む中、遠隔地に居住する独居者かぞくへの対応方法のアドバイス強化。	・自治会の正式認定を受けていない為、見守り隊への理解が低く、隊員の士気維持の手助けを検討したい。 ・遠隔地に住む家族が地元への過度な依頼心への対応方法の検討が必要である。
	出産を控えた母親、新生児を持つ親との関係作り(将来の虐待の予防 新規)	・関係課への働き掛けは、未だ出来ない。	C	・健康課などの関係機関と協議し、近場に居る親代わりとして相談相手になるための検討。 ・子育てを迎える母親との交流を持ち、産後うつ等に陥りやすい妊婦の発見方法の検討が必要。	・一人で悩ませない体制作りが目標だが構築は非常に高いハードルがある。 ・手伝って頂けるボランティア団体探しも必要 ・活動効果の検証はできないだろうが、意義は大きい、従事する委員のモラル維持方法の検討だろう。
18 地域の課題解決に向けた連携 (重点取組項目)	地域ケア会議への参加 地域ケア会議(見守りネットワーク土気会議)に参加し、地域の課題解決に向けた連携を行う。	・コロナウィルス拡大下では、時々、休会もあったが、積極的に意見交換やアドバイスを述べた。 ・関係専門機関と連携強化を図り、課題対応の活動に積極的対応を行った。	A	・非常に有意義な会議であり、継続参画していく。	・後期高齢者数の増加に伴い、寄り添いの連携強化。 ・気になる高齢者対応の為の活発な情報交換。

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 第５１０地区民生委員児童委員協議会

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 （いつ、どこで、何を、回数、人数 等）	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 （いつ、どこで、何を、回数、人数 等）	今後の課題
１ 情報の収集と共有化	民児協活動のＰＲ	社協情報紙に民児協の活動状況を掲載し、情報の共有化を図っている。 民生委員・児童委員の日の活動として、市民センターとあすみが丘プラザにポスターの掲載を行った。	Ａ	今年度も引き続き、社協情報紙に民児協の活動を報告し、地域への浸透を図っていく。 民生委員・児童委員の日の活動として、各自治会館・町内会館等にもポスターの掲載を依頼し、情報の拡大を図っていく。	社協情報紙が全世帯に浸透するための方策を図る必要がある。 各自治会・町内会との連携の強化を図る必要がある。
１２ 防災訓練の充実、意識啓発、体制整備 （重点取組項目）	災害時の対応	民生委員・児童委員に対して、防災意識の向上のために防災用品の提供を行った。 また、ハザードマップを再配布し、災害時の避難場所の再確認を実施した。	Ａ	独居高齢者に対して、災害時の非常食として配布を図りたい。 高齢者世帯に対して、ハザードマップを配布していきたい。	災害時用非常食を独居高齢者に提供が可能か検討を要する。 独居高齢者が一人で避難場所まで行けるか不明である。
１６ 見守り活動の推進 （重点取組項目）	独居高齢者への見守り	高齢者実態調査時に、高齢者に対して安心カードの配布を行う。	Ａ	高齢の独居者のみでなく、希望する高齢者に対しても安心カードの配布を行いたい。	６５歳以上の高齢者が安心カードを常時携帯する方向に向けて、十分な説明をする必要がある。

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
18 地域の課題解決に向けた連携 (重点取組項目)	高齢者への声かけ	見守りネットワーク土気会議に参加し、地域の課題解決に向けて、いきいきセンターやあんしんケアセンターの紹介をした。	A	高齢者の増加に伴い、健康維持のために各いきいきセンターやあんしんケアセンターの紹介を継続していきたい。	コロナ禍が収束しない時に個人宅への訪問が許されるか不安が残る。

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 千葉市あんしんケアセンター土気

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
１８ 地域の課題解決に向けた連携	・地域の関係団体・機関が連携し、地域課題の共有と課題解決に向けて話し合う場として、地域ケア会議（見守りネットワーク土気会議）を開催する。	・毎月１度、土気駅前郵便局２階会議室で、民生・児童委員、社協地区部会、連協、いきいきプラザ・センター、仕事相談センター緑、障害者基幹相談センター、高齢障害支援課等関係機関が集まり、地域課題について共有、検討する会議を開催した。防災に関することや、福祉まるごとサポートセンター等行政担当者にも出席を頂き、説明を頂くなど有意義な会議となった。 令和５年度は１１回会議を実施し、毎回１５～２０名程度参加。	Ａ	・令和６年度も毎月第一月曜日開催を予定している。参加人数も令和５年度と同様の人数を予定している。	・地域課題の共有については図れているが、地域課題を解決する具体策までの検討はできていない。 ・地域の関係機関と共同し、地域課題に対する対応策をとともに検討していく必要がある。
１８ 地域の課題解決に向けた連携	・フレイル状態の高齢者のニーズに合ったインフォーマル資源について、事例を用いて検討する「インフォーマルケア会議（地域ケア会議）」を開催する。	・毎月１度インフォーマルケア会議を実施した。土気駅前郵便局とオンラインでのハイブリット方式で会議を実施した。 千葉リハビリテーション広域支援センターや訪問看護ステーション、地域のＮＰＯ団体や寺の住職など地域の関係者に参加頂き、個別事例を用い、その方の住む地域や活用できる資源等について意見交換を行った。 毎回２０名程度参加。	Ａ	・令和５年度同様月１度程度の回数、人数を予定している。	・取り扱っていない地域の事例についても検討していきたい。
１９ 自宅療養中の家族がいる家庭への支援	認知症サポーター養成講座を開催し、認知症になっても安心して暮らせる体制づくりを行う。 ・小・中学生や地域住民、企業を対象にした認知症サポーター養成講座を実施し、認知症に対する知識・理解を地域に広める。	・１０月３日大椎小学校３年生に対し認知症サポーター養成講座実施した。２３名受講 ・１１月２８日越智中学校１・２年生に対し、認知症サポーター養成講座を実施した。７４名受講。	Ｂ	・令和５年度同様に小中学生を対象とした認知症サポーター養成講座を実施予定。 ・土気圏域内の企業や団体などからの依頼に応じて、認知症サポーター養成講座を実施する。	・認知症の高齢者に関する相談が多く寄せられており、地域で支えていくためには地域の方々の理解が今後さらに必要となる。地域住民や地域の商店、企業など幅広く認知症に関する理解を広めていく必要がある。

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 社会福祉法人くちなし

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
２ 子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流	ア 中学校への福祉教育 イ 中学校のキャリア支援教育への参加（緑区外）	ア 施設のコロナ感染対策は緩和したが、大勢の生徒と当施設利用者が交流するための訪問はまだ感染リスクがあると判断し、実施せず イ １２／１２（火）千葉市立末広中学校 職員２名参加 対象生徒２５名 ２／５（月）一宮町立一宮中学校 職員２名参加 対象生徒１７名	Ｂ	ア セルフ・ガーデンハウス利用者と中学校生徒が交流する福祉教育を、コロナ前まで行っていた土気中学校・越智中学校で再開したい イ 地域新聞との連携事業で、希望する学校との日程が合えば参加していく緑区内の学校からの希望があれば積極的に参加する	ア コロナはまだ散見されており、現在においても施設利用者が大勢の生徒と交流するための訪問は難しいと感じている
４ 障害者（児）・その家族が集う場の開設・拡充・情報提供	ア 近隣地域との交流による障害者への理解の促進 イ 障害を持つ人達が当たり前になる風景の促進	ア １１月２２日（水）セルフ・ガーデンハウスにて開催 参加者１６名 イ あすみが丘ブランニューモールでの買い物は実施できず	Ｃ	ア １１月に近隣地域の緑の森工業団地内の企業に働きに来ている人達を対象に普通救命講習会を開催。講習会後に施設見学と福祉講和を行う 目標：参加者２０名 イ あすみが丘ブランニューモールへ外出し、買い物・お茶等 年間：１５～２０回・３５名以上	ア 普通救命講習会の実施要項が変わり、コロナ感染対策のために必要な講習スペースの面積が大きくなったため、参加者が最大２０名となってしまう（コロナ前は例年３０～４０名が参加）
１２ 防災訓練の充実、意識啓発、体制整備	ア ふれあい福祉フェスティバルの開催 イ 緑区ふるさとまつりでの福祉啓発活動	ア １０月２１日（土）・２２日（日）土気駅前バーズモール広場にて開催 参加者・来場者 延べ約１０００人 イ １１月５日（日）緑区ふるさとまつりにてポッチャ体験と福祉車両展示コーナーを実施 来場者 延べ約３００人	Ｓ	ア １０月１９日（土）・２０日（日）に開催予定 土気地域１４の福祉団体で実行委員会を構成し、ステージイベントには一般市民の団体も参加する 参加者・来場者で約１０００人を見込んでいる イ 緑区ふるさとまつりにて、福祉啓発ブースとしてパラスポーツ体験（ポッチャ等）コーナーを設置 目標：来場者３００人程度	

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和5年度）及び計画（令和6年度）等調査票

団体名 千葉市精神障害者南地域家族会

※【達成状況の目安】S：目標を上回った。/ A：概ね目標を達成した。（8～10割）/ B：一部目標を達成した。（5～7割）/ C：大きく目標を下回った。（～4割）

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
4 障害者(児)・その家族 が集う場の開設・拡充・情 報提供	ア 例会	コロナ過の感染は減少。5月8日には 5類移行。会員の高齢化を配慮しな がら家族会活動を元の状態に戻して いった。緑保健福祉センターボラン ティア室等 ・4/1(土) お花見 9名 ・5/27(土) 総会(辺田町自治会館) 12名 ・6/24(土) 「話し合い」 11名 ・7/22(土) 「各家族の課題について」 5名 ・9/16(土) 研修「総合支援法等」 7名 講師 高橋友和・由良亮人 ・10/21(土) ビデオ鑑賞「ビューティフル・マインド」 10名 ・12/9(土) 「話し合い」 5名 ・1/20(土) 新年の挨拶 ・2/17(土) 「話し合い」 6名 ・3/16(土) 「話し合い」 5名	A	会員の高齢化を7配慮して無理をしない 家族会活動をして、活動が継続すること を重視する。高齢化した執行部の役員人 事の更新は目前の最重要課題であるが、 若年層の人材不足から一度に更新するこ とは困難であり、時間をかけたい。 ・例会：4月、6月、10月、12月、 2月 いずれも第3土曜日の13:00～15:00 緑保健福祉センター ・おしゃべり会：7月、9月、11月、 1月、3月 いずれも第3土曜日の13:00～15:00 緑保健福祉センター ・親睦を深めるため、新年会は実施する。 ・連絡方法の改善(費用を少なくする)	会員の高齢化等により会長等、人事が組 めない。 組織を強化したい。
	イ おしゃべり会の実施	実施せず	C		例会の中で実施する。
	ウ 会報「千南会」の発行	会報「千南会」第23号 9月1日発行 会報「千南会」第24号 3月1日発行	A	簡易な手作りの会報を発行したい(費用 はかけない)	正規の会報は発行しない。
	エ 拡大例会(講演会)の実施	11/25(土) 講演会(緑保健福祉センター) 「親亡き後の相談事例等からみる 課題～どのような解決策があるか」 岩崎社会保険労務士事務所 岩崎真弓先生 他 ・23名出席 ・親亡き後の課題について認識が深ま った	A	拡大例会は実施しない。	若返り人事が固まるまで控える。 ・千葉市障害者福祉団体補助金の申請等 の書類作成が若い人達には困難。(拒否 反応)ウ・エの資金が出ないため実施す ることができなくなった。